

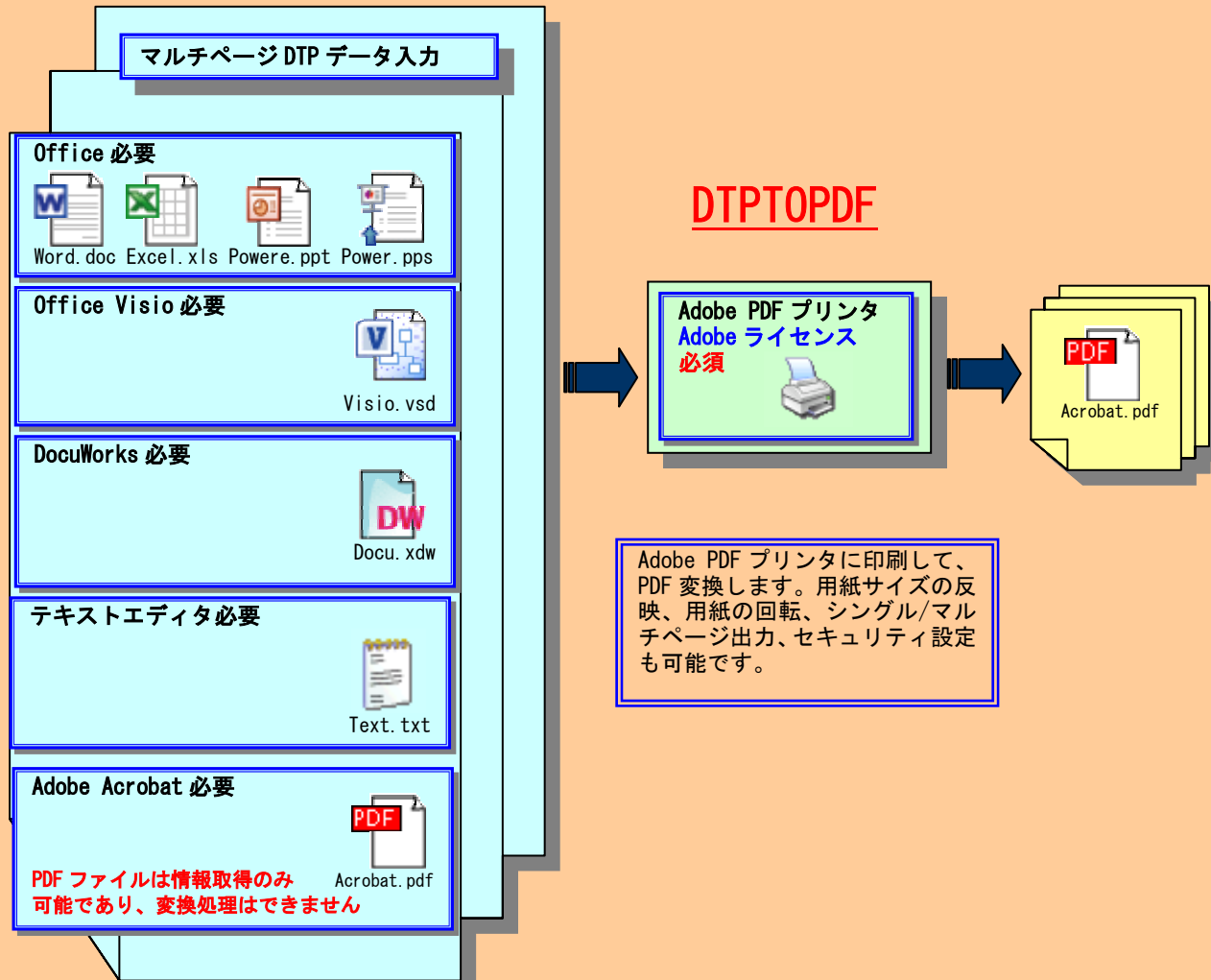
DTP製品と一体型データ変換ソフト



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

DTP 各種のデータを Adobe PDF プリンタで印刷することで、PDF データに変換します。



◆概要

各種 DTP データを必要なファイルフォーマット (PDF) へ変換します。

入力対応 DTP データ

アプリケーション	対応バージョン	ファイル種類(拡張子)
Microsoft Office Word	2000/XP/2003/2007/2010	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx
Microsoft Office Excel	2000/XP/2003/2007/2010	xls, xlw, xls, csv, xlt, xlsx, xltx
Microsoft Office PowerPoint	2000/XP/2003/2007/2010	ppt, pps, pot, pptx
Microsoft Office Project	2002/2003/2007	mpp, mpt
Microsoft Office Visio	2000/2002/2003/2007/2010	vst, vss
DocuWorks (Fuji Xerox)	5.0/6.0/6.2/7.0/7.1/7.2	xdw, xbd
標準ブラウザ(印刷機能が必要)		html, xml

※上記バージョン以外のファイルについては正式に対応していません。

◆特長

- ・ Windows プリンタドライバ(Adobe PDF プリンタ)を経由することによって、高品質な変換結果を得ることができます。
- ・ コマンドライン形式(DOS 操作)と GUI 形式(画面操作)の双方をサポートしたアプリケーションになっており、一つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したディレクトリ単位の一括変換が可能です。
- ・ オプション製品と組み合わせることによって指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された DTP データから PDF データへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。

◆注意事項

- ・ アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため、変換するファイルに対応するアプリケーションが必要になります。
- ・ 出力に関するデータ処理はすべてアプリケーションに依存します。Microsoft Office でマクロ命令を利用して画面にダイアログメッセージを出力し停止するような場合や、セキュリティ機能によりパスワードを求めるダイアログメッセージを出力し停止するようなデータ等は、変換ソフトもその時点で停止するので注意していただく必要があります。
- ・ Acrobat 7.0 Elements は、DTPTOPDF 製品でプリンタとしての利用は可能です。ただし、セキュリティの設定や解除などの機能は別途 Acrobat (有償)が必要になります。

◆製品構成

製品名	概要	定価 (税抜き)
DTPTOPDF	各種 DTP データを Adobe PDF プリンタを利用して PDF ファイルへ変換します。Adobe Acrobat (有償)が必要になります。	35 万円

※DTPTOPDF にはモノクロ版、カラー版はありません。

※Adobe Acrobat、FujiXerox DocuWorks の使用ユーザーは各メーカーのライセンス規約に準拠する必要があります。

◆動作環境

対応 OS : Windows2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7

※文書ファイルの変換を行うアプリケーション (MS-OFFICE, Acrobat 等) の動作環境に依存します。

◆対応表

製品名	ラスター 出力	PDF 用紙 サイズ反映	PDF 出力	DocuWorks 出力	バーコード 情報出力	PostScript 入力
DTPTOPDF	×	○	○	×	×	×

GUI 操作基本画面

◆GUI からの操作

- ・プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。設定後、実行 (OK ボタンを押す) すると変換が開始されます。処理が終了すると、設定内容に従った変換結果 (ファイル) が出力されます。
- ・各項目の情報は保存され、次回の変換にそのまま使用することができます。

Adobe PDF プリンタ

The screenshot shows the 'DTPTOPDF' application window with the following sections:

- プリンタ設定:** A dropdown menu set to 'Adobe PDF'. Buttons for '実行' (Execute), '属性保存' (Save Properties), and '閉じる' (Close) are on the right.
- ファイル名設定:** Fields for '入力ファイル名' (Input File Name), '出力ファイル名' (Output File Name), 'ログファイル名' (Log File Name), and 'XMLログファイル名' (XML Log File Name). Each field has a '参照' (Reference) button. A checkbox 'フォルダを選択' (Select Folder) is also present.
- ページ分割設定:** Radio buttons for 'シングルページ' (Single Page) and 'マルチページ(全て1ファイル)' (Multi-page (all in 1 file)). A 'マルチページ(ページ数指定)' (Multi-page (page count specified)) option with a numeric input field is also available.
- 用紙サイズマージン:** A checked checkbox '用紙サイズを反映する' (Reflect paper size). Input fields for 'Xマージン' (X Margin) and 'Yマージン' (Y Margin), both set to '5'.
- ファイル番号:** Input fields for '開始' (Start), '増加' (Increment), and '桁数' (Number of digits).
- Acrobat を使用するオプション:** A checked checkbox 'Acrobatの機能を使用する' (Use Acrobat features). Other options include 'サムネイルを付加' (Add thumbnails) and '最適化' (Optimize). A dropdown for '用紙の回転' (Paper rotation) is set to '縦横を元の状態で変換' (Convert in original orientation). Buttons for 'セキュリティの設定' (Security settings) and 'セキュリティ解除設定' (Security removal settings) are at the bottom.

入力ファイル名
出力ファイル名
ログファイル名

用紙サイズマージン

入力データが XDW や PowerPoint の際に、入力データの用紙サイズに合わせて変換を行うかどうかを設定します。また、用紙サイズを検索するとき使用するマージンを設定します。

Acrobat の機能を使用した機能を使用するかどうかの切り替え

用紙の回転、セキュリティ設定や、PDF ファイルを変換する場合、セキュリティ解除設定を行います。

ファイル番号

シングルページ出力や、ページ数指定のマルチページ出力時のファイル名に付加する番号を設定します。

シングルページ/マルチページの出力選択

コマンドライン基本操作

基本操作は、[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]より、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。

>実行ファイル 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション

〈例〉 入力ファイル(Sample_file.doc)を変換して、指定した出力ファイル(test.pdf)に出力。

実行フォルダに属性ファイル(drv_in.atr)が存在することを確認し、以下のように入力します。

```
C:¥>DTPTOPDF Sample_file.doc -0test.pdf -Udrv_in.atr -LOGtest.log
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTPTOPDF	: 実行ファイル名。
Sample_file.doc	: 変換元の入力ファイル名(入力に対応している DTP データ)。 この例では、MS-OFFICE(WORD) データファイル。
-0	: 出力ファイル名を指定するオプションパラメータ。
test.pdf	: 出力ファイル名(PDF)。
-U	: 属性ファイル名(初期設定:drv_in.atr)を指定するオプションパラメータ。
drv_in.atr	: 属性ファイル名。
-LOG	: ログファイル名(初期設定:err.log)を指定するオプションパラメータ。
test.log	: ログファイル名。

※ インストールパスが“c:¥Program Files¥dtptopdf”の場合、〈基本形の例〉を実行されると、それぞれ指定されたファイルは、プログラム内部で以下のフルパスに置き換えられて変換を実行します。

入力ファイル名	: Sample_file.doc	→	“c:¥Program Files¥dtptopdf¥Sample_file.doc”
出力ファイル名	: test.pdf	→	“c:¥Program Files¥dtptopdf¥test.pdf”
属性ファイル名	: drv_in.atr	→	“c:¥Program Files¥dtptopdf¥drv_in.atr”
ログファイル名	: test.log	→	“c:¥Program Files¥dtptopdf¥test.log”

【DTPTOPDF のコマンドラインからの操作における標準仕様】

- 変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチ化、解像度、等)は属性ファイルで行います。属性ファイルとはテキスト形式のファイルで、変換に関する各種設定情報を決められた項目に従って記述します。属性ファイル(テキスト形式のファイル)の編集の代わりに GUI(画面)から設定を行うこともできます。
- 使用するプログラムについてはカレントフォルダ(現在作業中のフォルダ)に対して相対/絶対パスで指定することができます。プログラムをインストールしたフォルダで作業する場合、パス名を省略できます。変換元ファイル(入力ファイル)、出力ファイル、属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。
- 相対/絶対パスを指定する場合においてパス名に空白(スペース)がある場合には、“” (ダブルコーテーション)を使用してください。
- 「-0」は出力ファイル名を指定するオプションパラメータです。マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、「-0」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。その他のオプションパラメータについても同様に扱います。
- 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。
- エラー情報や変換状況をカレントフォルダにログファイル名(err.log)で自動的に出力します。

操 作 例

1. コマンドラインからの実行

例 1 : 絶対パスを使用して、任意の変換元ファイル“c:\test\infile\Sample_file2.doc”を出力ファイル“c:\test\outfile\test2.pdf”に変換して出力。

```
C:\>DTPTOPDF "c:\test\infile\Sample_file2.doc" -O"c:\test\outfile\test2.pdf"  
C:\>
```

例 2 : 任意の属性ファイルを作成し、入力ファイル(Sample_file3.ppt)を出力ファイル(test3.pdf)に変換し、任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力。

```
C:\>DTPTOPDF Sample_file3.ppt -Otest3.pdf -Udrv_in_test.atr -LOG"c:\log\abcd.log"  
C:\>
```

(各パラメータについて)

drv_in_test.atr : 任意の属性ファイル名。

"c:\log\abcd.log" : ログファイル名(絶対パスを指定)。

※任意の属性ファイルは、初期設定の属性ファイル(drv_in.atr)をコピーしてファイル名を変更したファイルや属性ファイルに使用されているパラメータを含む内容のファイルです。

例 3 : アプリケーションのバージョン情報を出力。

```
C:\>DTPTOPDF -QV -LOGver.log  
C:\>
```

(各パラメータについて)

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示するオプションパラメータ。

ver.log : ログファイル名。

※「-QV」と「-LOG」を同時に指定した場合は、指定したログファイルにアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4 : PDF ファイルの情報をファイル出力。

```
C:\>DTPTOPDF data.pdf -QS  
C:\>
```

(各パラメータについて)

-QS : PDF 情報出力ファイル名を指定するオプションパラメータ。

※初期設定は、pdf_inf.txt です。

※PDF 情報出力ファイルは、PDF ファイルに関する情報を書き出して出力するファイルです。

※カレントフォルダに、PDF 情報出力ファイルが作成されます。

例 5 : PDF ファイルの情報を任意のファイルへ出力。

```
C:\>DTPTOPDF data.pdf -QSjouhou.txt  
C:\>
```

(各パラメータについて)

jouhou.txt : 任意の PDF 情報出力ファイル名。

※PDF 情報出力ファイル名の指定が省略された場合は、初期設定のファイル名(pdf_inf.txt)に情報を書き出します。

例 6 : バッチファイルからの実行(フォルダ単位の拡張子による一括変換)。

バッチファイルで記述された内容の実行を実行します。
複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換する場合に使用します。

任意の名称(test.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
c:¥test_1¥*.ppt -0c:¥out_1¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_1¥err.log
c:¥test_2¥*.doc -0c:¥out_2¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_2¥err.log
c:¥test_3¥*.xls -0c:¥out_3¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_3¥err.log
```

C:¥TEST_1 に存在する拡張子が ppt のファイルをすべて拡張子を pdf に変更したファイル名で変換します。拡張子 doc、xls についても同様の処理になります。処理の内容は同時に複数の指定を記述することができます。なお、ワイルドカード(*)が指定できるのは、入出力ファイル名のみとなります。

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTPTOPDF -BATChtest.txt
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-BATCh : フォルダ単位の一括変換を行うために使用するオプションパラメータ。
test.txt : バッチファイル名。
※「-BATCh」で指定された任意のバッチファイル名(test.txt)の内容に従い処理を行います。

2. コマンドラインからの実行「標準入力、標準出力、標準エラー出力」

例 1 : 標準入力にて DOC データを渡し、出力ファイル名指定(test.pdf)で PDF ファイルに変換し、標準エラーをテキストファイルに出力。

```
C:¥>DTPTOPDF < abc.doc -0test.pdf 2> err.txt
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-DTPTOPDF : 本アプリケーション。
abc.doc : 標準入力の WORD ファイル。
-0test.pdf : 出力ファイル名を指定。
2> err.txt : 標準エラー出力をファイルに保存。

例 2 : DOC データを入力データとし、標準出力として PDF ファイルを出力。

```
C:¥>DTPTOPDF in > out.pdf
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTPTOPDF : 本アプリケーション。
in : DOC ファイル名。
> out.pdf : DTPTOPDF の標準出力を out.pdf に出力。

注意事項) 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。

変換機能

主な変換機能として、以下の設定を行うことができます。

これらの変換機能は GUI (画面) または属性ファイル (テキスト形式)、オプションパラメータから指定します。各製品により機能が異なるため使用できる項目に一部違いがあります。

- ・ シングルページ/マルチページ出力指定
- ・ 用紙サイズの自動認識指定 (XDW 入力時)
自動認識をする場合、入力データの用紙サイズを自動的に判別して出力データへ反映します。
自動認識をしない場合、設定されている用紙サイズで出力します。
- ・ PDF 入力処理時、セキュリティの解除機能
- ・ ログファイルの出力
- ・ ページ分割の指定
- ・ バッチ処理 (フォルダ単位の拡張子による一括変換)

制 限 事 項

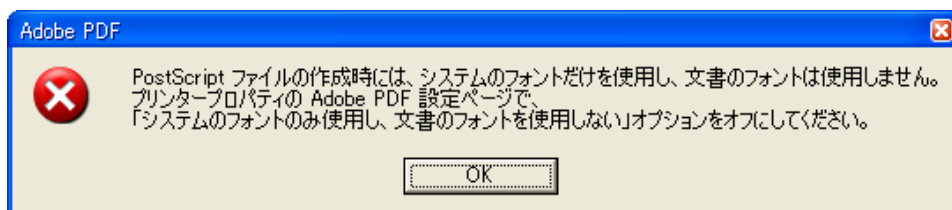
DTPTOPDF の制限事項

- ・ 多重起動(本アプリケーションを同時に複数実行)することはできません。
- ・ 本アプリケーションはログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では動作しません。
- ・ 変換対象ファイルの拡張子に関連付けられているアプリケーションから、任意の Acrobat Distiller (Adobe PDF プリンタ)へ直接印刷した場合に、正常に印刷を行うことが可能なファイルが必要です。印刷エラーやシステムダウンが発生する場合は、対応できません。
- ・ Server PC にて MS-OFFICE のアプリケーションで作成されたファイルについて、Adobe Acrobat5.0 を利用して PDF ファイルに継続して変換を行う場合に、ハングアップする場合があります。よって、ハングアップをする場合は下記のように対応ください。
 - ① Office のバージョンを最新にアップデートしてください。
 - ② Office をインストールしたフォルダの下に「Startup」、「XLStart」があります。そのフォルダの下に「PDFMaker.dot」、「PDFMaker.xla」がありますので、このファイルを削除してください。

例)

```
Program Files¥Microsoft Office¥Office¥Startup¥Startup¥PDFMaker.dot
Program Files¥Microsoft Office¥Office¥Startup¥XLStart¥PDFMaker.xla
```

上記 2 ファイルは「Program Files¥Adobe¥Acrobat 5.0¥PDFMaker」にありますので元に戻したい場合はコピーしてください。
- ・ 本製品を実行するには「Adobe Acrobat (日本語版)」の ver5.0 以降の Professional 版または Standard 版が必要となります。なお、「Adobe Reader」での動作は致しません。使用ユーザーは Adobe ライセンス規約に準拠する必要があります。(ネットワークを介した直接・間接的に利用するユーザーまたは端末と同数のライセンスを取得する必要があります。)
- ・ DTPTOPDF が異常終了した場合には、使用中のアプリケーションがタスク上に残っている場合がありますので、タスクマネージャ等で終了させてください。
- ・ シングルページ、またはマルチページ(ページ数指定)出力を行う場合は、Adobe Acrobat の機能を使用するオプションを有効にする必要があります。
- ・ 変換する文書ファイルにマクロ機能やパスワードの入力等で何らかのダイアログが表示される場合には、変換処理が止まる場合があります。ダイアログを手動で対処するかマクロを削除して再起動してください。
- ・ 用紙規定値コードは各プリンタドライバの用紙サイズごとに設定されている値でありインストールマシンによって異なる場合があります(A3, A4, B4, B5 等は共通です)。複数のマシンで使用する場合は各マシンで設定する必要がありますので注意してください。
- ・ サービス上で起動するとプリンタの権限が与えられていないため、本アプリケーションは用紙サイズの切り替えを行うことができませんので、設定されている規定値の用紙サイズでのみ出力可能です。
- ・ DTPTOPDF でセキュリティ設定を行う場合は、Acrobat Distiller (Adobe PDF プリンタ)のセキュリティ設定を行わないでください。Acrobat Distiller (Adobe PDF プリンタ)のセキュリティ設定を有効にする場合は、DTPTOPDF のセキュリティは無効になります。
- ・ インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。
- ・ EXCEL データの変換を行った際に下記のエラーメッセージが発生する場合があります。このエラーが発生した場合には対象の EXCEL データの印刷設定を見直してください。



EXCEL ファイルの保持するページ設定が「Adobe PDF」以外の場合、現在設定されている Adobe PDF の設定が有効になりますが、EXCEL ファイルが「Adobe PDF」のページ設定を保持している場合は、変換の際にページ設定が有効になります。

回避方法

1. 「通常使うプリンタ」を「Adobe PDF」に設定します。
 2. 対象の EXCEL データを開き、「ファイル」メニューの「ページ設定」を起動します。
 3. 「オプション」ボタンをクリックし、印刷設定を確認します。
 4. 設定が、「DTP 関連製品の各種の設定方法について」の設定と異なっている場合「DTP 関連製品の各種の設定方法について」に合わせて、設定を行います。
 5. 「OK」ボタンでダイアログを閉じ、EXCEL ファイルを保存し直します。
- ・ シングルページでの標準出力を行った場合、先頭の 1 ページのみが標準出力されます。
 - ・ DTPTOPDF 動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス(参照、コピー等)は行わないでください。
 - ・ 変換を行うマシンとは別のマシンで作成した、用紙サイズが A3 以上の Visio ファイルを変換すると分割されて出力される場合があります。
 - ・ 変換結果の PDF は、Adobe PDF プリンタを通して変換するのみの場合は、Adobe PDF プリンタの PDF バージョンで出力されます。ただし、Adobe PDF プリンタを通した後、シングルページやセキュリティ設定など、Acrobat プラグインを利用して、PDF ファイルを変更する場合は、Acrobat の保存仕様に依存しますので、PDF ファイルのバージョンが異なる場合があります。
 - ・ Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト・ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。
 - ・ Adobe PDF プリンタで使用可能な用紙サイズ件数が 1024 件を超える場合は、正常に動作しません。